

身近な地域～松戸とその周辺～の歴史に学ぶ

令和8年度第Ⅰ期 開講日時・テーマ・受講者数

・発掘調査に学ぶ	4月23日～5月7日 (木・3回)	受講者12名
・古代東海道と葛飾に学ぶ	5月28日～6月18日 (木・4回)	受講者19名
・近世(江戸時代中期以降の小金牧)に学ぶ	4月23日～6月18日 (木・7回)	受講者9名
・松戸の旧跡を歩く～五香・常盤平の歴史探訪～	5月14日 (木・1回)	受講者20名

講座のねらい・内容

いつものまちが、歴史になる。
— 歩いて、知って、松戸を再発見 —

聖徳大学オープン・アカデミー(SOA)では、大学の教育内容を広く社会に還元する取り組みの一環とし、公開講座を開講しています。

本講座では、大学が所在する松戸周辺の歴史について、様々な年代を市内各地域ごとに学ぶことができる講座です。このシリーズの講師は、元光英VERITAS中学校・高等学校教諭の綿貫貴が務め、令和6年の5月から始まり、今年で3年目となります。令和8年度第Ⅰ期では「松戸市周辺の発掘調査」・「古代東海道と葛飾」・「江戸時代中期以降の小金牧」の3講座を開講し、第Ⅱ期では「千葉開府900年・中世の東国」・「江戸時代の鷹狩と鹿狩」を開講します。さらに、それぞれの期に1日講座として、市内の旧跡を歩いて巡る「歴史探訪」も実施しています。第Ⅰ期には「五香・常盤平の歴史探訪」を実施し、過去には、松戸宿の南部〈戸定邸・角町・本陣跡〉や小金宿界限などを取り上げました。実際にまちを歩きながら、普段何気なく通り過ぎている場所の歴史的背景を知ること、身近な風景の中に歴史が息づいていることに気付き、新たな発見につながる機会となっています。

受講生の声

- ・身近な地域の大昔について知ることができとても興味深かったです。
- ・長く受講する事によって、講師の先生や受講されている方との交流が少しずつできてきて、講座内容以外の楽しさが生まれました。
- ・身近な地域の史跡の詳細なお話を伺い、現代につながっていく過程を学べて大変楽しかったです。歴史をさかのぼって思いを馳せる時間を持つことができて満足です。資料も貴重なものをご用意いただきありがとうございました。
- ・地域とのつながりを感じることができました。



成果と課題

戦後、東京のベッドタウンとして発展してきた松戸。古くは水戸街道の宿場町や幕府直轄の牧場が存在しました。

自分が住んでいる地が昔どのような場所であり、その後どのように発展してきたのかを学ぶことによって、より豊かな生活が送れるような講座となっています。

今後も、様々な時代や地域を取り上げることによって、より身近な地元の歴史を学べる講座としていきたいと考えています。

